

# 2019年度 事業計画

社会福祉法人 晴誉会

## 1、総論

社会福祉法人晴誉会の掲げる理念のもと、以下の各項目において方針に則った保育・教育活動、施設運営の実現を下記の計画のもと推進していく。

## 2、2019年度の動向

### <安定した運営>

2016年度より、晴誉会の施設は幼保連携型認定こども園に変更したものの、新制度下での運営は未だに安定とは程遠い状況にある。2019年度においては過去の推移をつぶさに研究し、安定した運営を目指すこととしたい。

### <大阪北部地震の影響>

2018年度は災害の多い1年であった。園舎・備品・職員に致命的とされる影響はなかったものの、園舎はダメージを受けており、また大型プールの破損など少なくない影響を受けている。緊急的な対応を必要とする修繕を適切に実施し、かつ危険箇所の除去を進めていく必要がある。

### <組織体制>

組織体制としては大きな変更を計画していない。2019年度においては、前年に継続して1法人2施設の体制の下、法人本部を含めた法人組織としての運営管理、組織体制の確立を課題としていく。

### <1号枠の受け入れと2・3号枠の定員について>

昨年度の運営状況を鑑み、2019年度も1号認定こどもの積極受け入れは行わず、福祉提供を必要とする在園家庭への支援として1号枠を活用していく。

一方で、茨木市の待機児童増加の傾向を続けている。市内の法人としてこの問題は看過できるものではないため、今年度も両施設のキャパシティ最大限の受け入れを実施していく。

### <職員体制>

経理状況を鑑みるに、過去の制度下では最大の職員数となる。新制度下での対応を適正に行なうためにも、職員数の拡大・維持は必要であると思われる。

### <人材育成>

職員を確実に育成していくためにも中堅管理層（指導者層）および管理層の育成が課題である。今後も、職員の研修・育成体制の充実を図るために、またチュータ制度の一層の充実のためにも、外部講師による管理職層の研修を継続して実施していく。

今後も継続的に、各能力に応じた計画的な法人内人材育成を計画していく。

### 3、施設運営・法人運営

#### <山手台保育園>

- ・ 2015年度に大規模改修を実施したが、なお建築40年を迎え、園舎全体に補修・改修が必要な箇所が見られている。
- ・ 地域の保育ニーズは、山手台東町・山手台新町への新規住人の流入に伴い、山手台地区の児童数が近年に近く増加傾向にある。山手台新町2丁目・同3丁目の開発により、この傾向が継続する見込みである。
- ・ 育児休暇の延長や世情の推移に伴い、0歳児・1歳児・3歳児の保育ニーズが高く見られる。これは山手台新町のみならず茨木市北ブロックで見受けられる傾向である。

#### <彩都保育園>

- ・ 近年の地域の保育ニーズは町の成熟に伴い やや低下傾向にあったが、彩都茨木市域に新たにマンションが4棟建設され、彩都の保育ニーズはあきらかに増加している。
- ・ 地域ニーズとしては、低年齢の受入希望・待機が多い状態である。

#### <法人>

- ・ 2016年度に幼保連携型認定こども園への移行を実施した。移行の影響は大きく、今後の推移を見守る必要がある。
- ・ 管理職員、中堅職員の育成に努め、研修を強化していく。
- ・ 施設間の保育内容の格差の是正（提供サービスの均一化）に努める。

### 4、保育を取り巻く環境

#### <幼児教育・保育の無償化>

2019年10月より、消費税の増税とともに幼児教育・保育の無償化が実施される。ニーズの動向を踏まえるとともに、新たに設けられる副食費などの調査と対応を前倒しに実施していく必要がある。

また、消費税の増税は単に諸経費の増加を意味しており、こちらも対応の検討が必要と思われる。

#### <茨木市行動計画>

茨木市は新たな待機児加速プランへの対応を進めている。

その中で、既存保育施設（保育所・認定こども園）の活用を積極的に進めていく方針となっており、法人としても協力体制を継続していく。

### 5、事業計画

#### <彩都保育園の償還計画に関して>

彩都保育園の建設資金の償還が行われている。継続的な資金計画が必要とされる。なお、彩都保育園に関しては2008年度より単年度黒字となっており、これを継続している。

以上